

家庭学習の手引き ～続けることが最大のポイントです！～

平成31年度版



今年度の、「家庭学習の手引き」を発行します。これは朝日小学校として、家庭学習を進める上での指針です。学年、学級担任や児童の様子によって進め方はいろいろありますが、ご家庭で家庭学習をお子さんと考える時の参考にしてください。

家庭を学びの環境に ～自ら学ぶ子をめざしましょう～

1. **基本的な生活習慣を見直しましょう**
早寝・早起き・朝ごはん・朝の排便を大切に！
2. **家庭の学習環境を整えましょう**
決まった場所で一定時間、テレビを消して集中！
3. **学習習慣の定着をめざしましょう**
基本的な学習習慣や自学自習の習慣を！

新冠町立朝日小学校

家庭学習を習慣化しましょう

確かな学力を付けるためには内容の理解を深めるだけでなく、子ども達の学習意欲の向上と共に学習習慣の確立が必要です。学校で学習したことを家庭で復習したり、翌日何をするのかと予習したり、家庭での学習習慣＝家庭学習も大きな要素となります。

昨年度の家庭学習に関するアンケート（児童）結果によると、どの学年の児童も家庭での学習習慣がおおむね身に付いていることがわかりました。

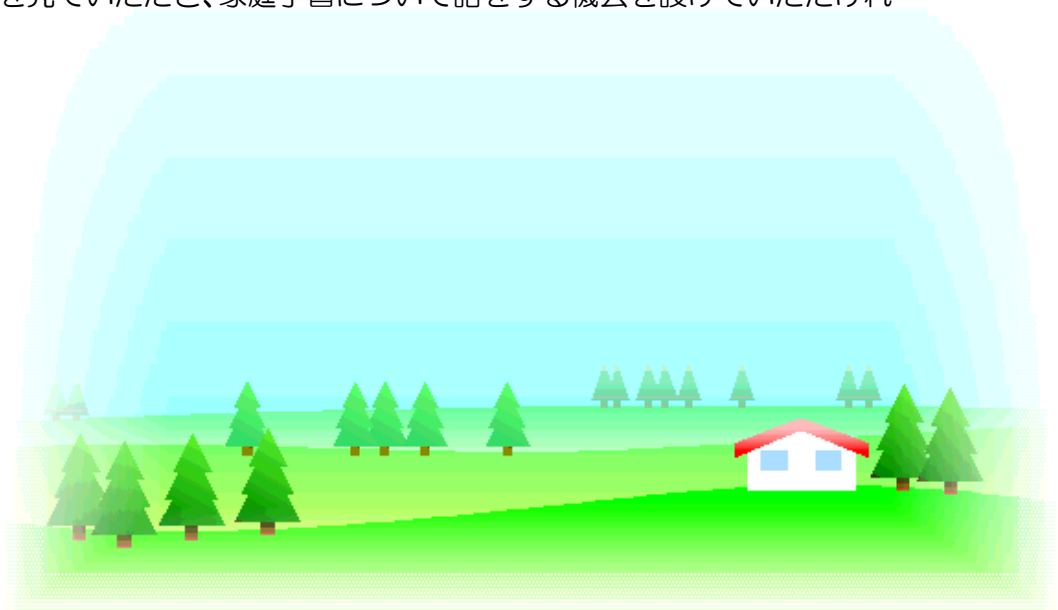
低学年は、学校から出される「宿題」の割合が大きく、学年が上がるにつれ、自分で課題を見つけ自主的に学習する割合が大きくなりました。学年が上がるほど、多分野にわたる取り組みが見られます。また、音読はご家庭の協力をいただいて、全学年共通で行っています。

工夫されたり、がんばっているノートは学級通信で紹介したり、がんばり表や励ましのコメントを載せたりして、子どもの意欲を高めるような工夫もしています。

様々な方法で取り組んでいますが、どの担任も学校と家庭とがつながることによる学習習慣の確立を旨としています。

お子さんと折にふれ、学校だけでなく、家庭でのがんばりにぜひ「励ましの言葉」をかけていただければと思います。

この手引きも参考にいただきながら、家庭学習の習慣が確立するように、お子さんの様子を見ていただき、家庭学習について話をする機会を設けていただければ幸いです。



低学年(1.2年) 基本的な学習習慣を身につけよう

低学年(1.2年)では…

「早寝早起き」「規則正しい食事」「朝の排便」など基本的な生活習慣を身につけることが学習習慣の定着に欠かせません。

家族の助けを借りながら、学校での学習を受け学習内容や方法を決め、できたことをほめることによって興味・関心を引き出し、意欲を高めることができます。

学習時間のめやす

10~20分

学習の特徴

- 45分を1時間とした授業の中で「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な内容を学習します。その中には繰り返し練習することで力がつく学習内容がたくさんあります。
- 「正しい姿勢で座る」「鉛筆を正しく持つ」「明日の授業の準備をする」「身のまわりの整理整頓をする」ことが学習の基本になります。
- 生活と結びついた学習が多く、具体物を使ったり、実際に体験したりする学習が中心になります。

家庭での援助

- 学習を始める前にテレビを消しましょう。勉強をする場の整理整頓をしましょう。
- 学校からの連絡やお便り、明日の授業などをお子さんと一緒に確かめることが大切です。
- 学習時間を決め、家庭学習をする時はなるべく近くにいて、家族の温かい助言や励ましの言葉をかけてあげるとやる気につながります。
- まずは、毎日宿題をやりきらせることを続けましょう。(宿題のない日もあります)
- 一緒に買い物したり、時計を読んだりしながら、お子さんの生活経験を増やしましょう。

家庭学習の内容

こくご

(音読)

- ・音読は脳の発達にきわめて有効です。楽しみながら大きな声で読めるようにしましょう。
- ・句読点(「、」「。」)に気をつけて、すらすら読めるように練習しましょう。
- ・毎日続けて練習しましょう。

(漢字)

- ・書き順や文字の形に気をつけて書きましょう。
- ・正しい姿勢でていねいにゆっくり書きましょう。

(読書)

- ・お子さんの興味や関心、学年に応じた本をまわりに置きましょう。
- ・読み聞かせも効果的です。

さんすう

- ・計算力の向上には、まずはゆっくり正確に計算できるように、正しい計算手順を確実に身につけさせましょう。(筆算した式は消さないで、残しておきましょう。)
- ・正しく計算できるようになったら、徐々に早くできるように練習しましょう。
- ・間違った問題は必ず見直し、もう一度やり直すことが重要です。

そのほか

- ・鍵盤ハーモニカを練習したり、生活科で動植物の観察をしたりすることもよいでしょう。
- ・楽しかったことや嬉しかったことを自分の言葉で絵日記や日記に書くことはおすすめです。
- ・家庭での援助として、音読を聞いてあげて、感想を話してあげると意欲につながります。



中学年(3.4年) 自主的な学習習慣を身につけよう

中学年(3.4年)では…

自立心が芽生えてくるとともに、自分でやろうとすることが多くなり、「やる気」や「根気」が育つ時期です。語彙(言葉)の獲得能力が高くなり、抽象的な思考ができるようになっていわれています。

「急に勉強が難しくなった」という戸惑いや苦手意識を持つ子どもも出てきます。自信を持たせたり、意欲を膨らませたりするような励ましが大切です。

学習時間のめやす

30~40分

学習の特徴

- 総合的な学習の時間や社会、理科の学習が始まり、学習内容も大きく広がります。
- 国語辞典や漢字辞典、地図帳などの使い方を学び、自分で調べる学習をすることが多くなり、自学自習の基礎を学びます。
- 3年生では、ローマ字を学習し、パソコン学習でローマ字入力に取り組みます。
- 算数では、四則計算(+)・(-)・(×)・(÷)の基礎・基本を徹底して学ぶとともに、分数や小数など少しずつ抽象的な内容も学ぶようになります。

家庭での援助

- 家族の温かい助言や励ましの言葉でやる気を起こしたり、宿題や持ち物の点検をしたりするなどの手助けがまだ必要です。徐々に自分でできるように支援していきましょう。
- 自分から机に向かう態度を育て、集中して取り組む習慣をつけることが大切です。
- 学習をする前に、学習する場所の整理整頓を行い、自分で今日の宿題を確認させ必ずやりきらせましょう。学校からのお便りなどを親へ手渡す習慣をつけましょう。
- 社会や理科で勉強する地域社会の文化や産業、自然などに触れる体験をさせましょう。「体験」が学習のすそ野を広げます。

家庭学習の内容

国語

(音読)

- ・音読は学年が上がっても大切です。毎日音読をする習慣を身につけさせましょう。
- ・文章を正確に読むことができるようにしましょう。

(漢字)

- ・正しい書き順で、正確に文字が書けるようにしましょう。
- ・とめ、はね、はらいに気をつけて、ていねいに繰り返し練習しましょう。

(言葉)

- ・国語辞典や漢字辞典を手元に置き、使い方に慣れるようにしましょう。

(読書)

- ・いろいろな種類の本を選んで読むようにしましょう。

算数

- ・かけ算やわり算など正しい計算手順が身につくよう、毎日練習しましょう。
- ・三角定規や分度器、コンパスなどが正確に操作できるように繰り返し練習しましょう。

その他

- ・リコーダーで習った曲の練習をしましょう。
- ・社会や理科で勉強する地域社会の文化や産業、自然などに触れる体験をしましょう。
- ・学校で学習した内容を振り返り、自分の苦手なところや計算、漢字の練習をしてみましょう。



高学年(5.6年) 自学自習の習慣を身につけよう

高学年(5.6年)では…

生活のリズムの乱れは学習習慣にも影響を及ぼします。もう一度生活習慣を見直し、計画的に学習を進めることが大切です。

学習への意欲や興味・関心を高めるために、家族の言葉かけが大切になります。目標を決めて努力できるよう、温かく見守りながら励ましましょう。

学習時間のめやす

50~60分

学習の特徴

- 学習内容が多くなり、論理的な内容や抽象的な思考を伴う学習が増えます。
- 筋道を立てて考える力や広い視野で物事を見る力が必要になります。
- 家庭科の学習が始まり、衣食住の基礎・基本を学びます。
- 外国語活動や総合的な学習の時間では学校外の多くの人々に触れ、様々な体験を通し、生き方を学んだり、感謝の気持ちを持たせたりするように取り組みます。
- 自ら学ぶことの面白さや楽しさを経験することで、ものの見方や考え方を身につけることができます。

家庭での援助

- 考える力が大人並みになり、時には大人への反抗も見られるようになります。
- 「やればできる」という気持ちと子どもの知的好奇心を喚起させることが大切です。子どもの自尊感情を育てるように、うんとほめたり励ましたりしてあげてください。
- 家族の一員として、お手伝いすることや役割を決め、家庭科などで学習した内容を生活の中で実践したり、生かしたりできるようにするとよいでしょう。
- 学習する場所を決め整理整頓を行い、計画を立てて学習が進められるようにしましょう。

家庭学習の内容

国語

(音読)

- ・高学年でも脳の発達に音読は大切です。情景を思い浮かべながら感情を込めて読むなど、自分のめあてを決めて練習しましょう。
- ・詩や俳句などを暗唱したり、朗読したりしましょう。

(漢字)

- ・漢字の構成や字形を意識して練習しましょう。
- ・短文作りにも取り組みましょう。

(言葉)

- ・国語辞典や漢字辞典を手元に置き、積極的に使いましょう。

(読書)

- ・いろいろな種類の本を選んで読むように心がけましょう。

算数

- ・計算力を向上させるために、よく間違える計算は繰り返し練習しましょう。
- ・答えの確かめを自分でできるようにしましょう。

その他

- ・学校での学習内容を振り返りながら、教科書やノートなどを参考にして、自主的に学習したり、苦手な内容に取り組んだりしてみましょう。
- ・日記など文章を書く機会を増やしましょう。
- ・星の観察や農作物・身のまわりの工業製品についての調べ学習を行いましょう。
- ・学習内容を家庭生活で実践したり、生かしたりすることも大切です。



家庭を学びの環境に

～自ら学ぶ子をめざしましょう～

○基本的な生活習慣を見直しましょう

新聞等の報道によると、全国の小学生の数%が朝食を取らずに登校しているようです。また、朝の排便もしっかり習慣化されていない子どもも増加傾向のようです。

毎日の生活で、早寝早起き、朝食を含めた規則正しい食事、朝の排便などの基本的な生活習慣を確実に身につけ、子どもにあった1日の生活リズムをつかませることが重要と考えられます。

生活リズムを整え、早寝早起きを心がけることにより、起床してから余裕を持って食事、排便、登校の準備ができるようにしましょう。

○家庭の学習環境を整えましょう

基礎学力を定着させ、「学ぶ力」を育てるためには学校の授業だけでなく、家庭での学習習慣が大きな役割を果たしています。学校で子どもたちの主体的な学びを育て、学び方を身につけさせると同時に、家庭ではお子さんの基本的な生活習慣を確立し、決まった場所で一定の時間、学習に集中して取り組ませるようにすることが重要です。

脳科学の研究により、ゲームのやり過ぎが脳の発達を阻害することが明らかになっています。できれば、ゲームをする時間を家庭で話し合い、その影響も考えて1時間以内に抑えるようにしたいものです。アナログゲームで家族の交流を深める、読書をする、等ゲームから離れる時間も積極的に作りたいものです。

学習をする時はテレビを消して、学習する場の整理整頓をするなど、集中して学習に取り組むことができる環境を整えることが必要です。毎日の生活習慣を見直し、勉強をする場所や時間、テレビやビデオ、ゲームをする時間などを決めましょう。

また、学校では朝読書など本に触れる機会を増やしてきました。読書はすべての学びの基本です。家庭でも読書をする時間を決めて、毎日の音読だけでなく、静かに本を読む習慣も身につけましょう。

○学習習慣の定着をめざしましょう

「自ら学ぶ子どもたち」を育てるために、子どもたちが一番安心して生活できる家庭で、安定した生活リズムの中、毎日継続して学習に取り組むことが重要です。

低学年では、宿題などをやりきらせるなど基本的な学習習慣を身につけさせ、高学年では、授業の予習や復習、自主勉強など自学自習の習慣を身につけさせることをめざしましょう。

家庭での学習習慣の定着を目指して、家庭生活・家庭教育を見直し、各家庭の事情に合わせた内容や方法を考える参考資料として、「家庭学習の手引き」を作成・配布させていただきます。

小学校低学年、中学年、高学年に分けて、家庭での学習時間のめやす（学年×10分）や学習内容の特徴、学習の基本や家庭での援助など学年に応じた家庭学習のあり方を具体的に示しています。

各家庭の事情やお子さんの実態に合わせ、また各学年、学級担任の方針を確認いただきながら、家での約束をお子さんと確認し、家族で話し合いながら活用していただければと思います。



子どもの脳に いい習慣 悪い習慣 (脳神経外科医 林成之 先生)

Q1 子どもの話を聞き流していませんか？

「おもしろがって聞いてあげれば、前向きにな気持ちになるドーパミンが脳内に分泌され、いいアイデアの思いつける子になります。」

Q2 子どもにいい質問していますか？

「いい質問とは、子ども自身に考えさせる声かけのことです。親が「こうだよ。」と言ってしまえばたやすいことですが、子ども自身に考える過程を作ってあげることが大切です。たとえ答えが出なくても、自分で考えようとするのが脳を鍛えます。」

Q3 毎日の生活のリズムを一定に整えていますか？

「“今日は特別”が多すぎませんか？毎日規則正しい生活を送ることは、しつくとして基本的な生活習慣を守れる子にするという以外に、外部からの情報を正確に判断するために働く本能を鍛えることにもなるそうです。」

Q4 人の悪口を言っていますか？

「まずは親自身が、人を好きになるのです。特に先生の悪口を言うのは、やめてください。子どもが先生の言うことや勉強をいやだと思ふ原因となります。」

Q5 頭ごなしにしっかりつけていませんか？

「叱る場合は、きちんと理由を含めて話すこと、叱った後に必ずフォローを入れることが重要です。頭ごなしに叱りつけられると、子どもは自分を守るため、聞くふりをしたり、嘘をつくようになります。」

Q6 損得で物事を考えていませんか？

「親が損得で物事を判断していると、子どもも同じ思考回路になってしまいます。何事も全力投球できる子になってほしいなら、その考えを捨ててください。損得抜きで全力投球できる子は、どんな場面でも才能を発揮できます。損得で力加減してしまうようでは、ここぞというときに何もできません。」

